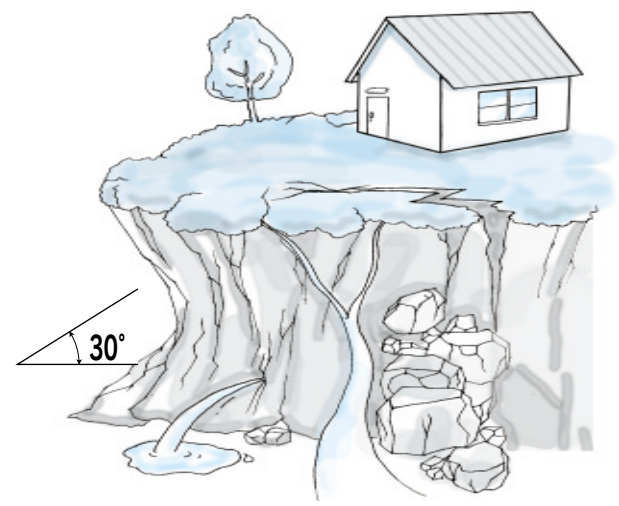


毎年この時期は、集中豪雨や台風が発生しやすく、大雨による洪水や土砂災害、暴風雨などによる被害が各地で出ています。風水害への備えはこれからが本番です。普段から、家の周りや地域の危険個所を確認し、家庭や地域で安全対策を話し合うなどして、風水害に備えましょう。

土砂災害の危険個所をチェックしよう

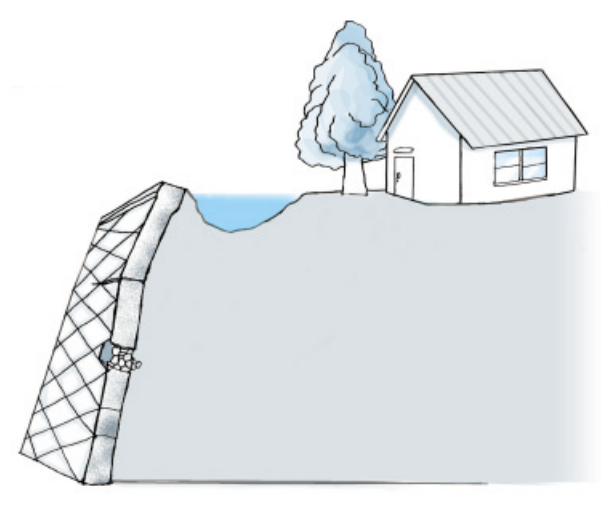
勾配が30度以上あるがけは、大雨により崩れる危険性が高い場所です。また、がけや盛り土の崩落を防ぐための擁壁も、その構造や築年数の経過によっては崩れる危険性があります。日ごろから家の周囲をよく見て、危険個所がないかチェックしておきましょう。

● こんながけに注意



- 不安定な岩や土の塊がある
- 斜面に亀裂がある
- 雨が集中して流れるところがある
- わき水が出ている
- 勾配が30度以上、高さ5m以上

● こんな擁壁に注意



- 擁壁が変形している
- がけの上に水がたまっている
- 水抜き穴が少ない、または詰まっている
- 雨水がたまりぬかるみができている
- 擁壁の裏側に補強用の石が詰まっていない
- 基礎部分が十分に土中に埋まっていない

土砂災害から身を守るために

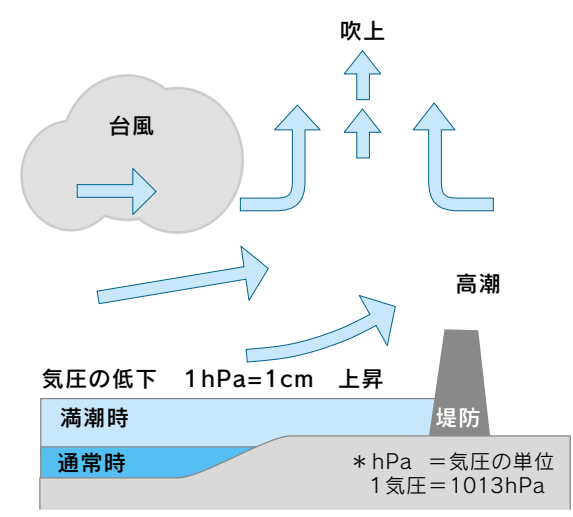
土砂災害の危険が迫ったときには、素早く避難することが大切です。いつもと違う大雨が降っているときは、テレビやラジオの気象情報を注意深く聞くようにしましょう。また、土砂災害には以下のような前兆が見られることがあります。

がけ崩れ・山崩れ	地すべり	土石流
<ul style="list-style-type: none"> ● がけからの水が濁る。 ● 地下水やわき水が止まる。 ● 斜面がひび割れ、変形がある。 ● 小石が落ちてくる。 ● がけから音がする。 ● 異様なにおいがする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地面にひび割れができる。 ● 井戸や沢の水が濁る。 ● がけや斜面から水が噴き出す。 ● 家や擁壁に亀裂が入る。 ● 家や擁壁、樹木、電柱が傾く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 山鳴りがする。 ● 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。 ● 川の水が濁ったり、流木が混ざったりする。

少しでも異常を感じたら、すぐに避難しましょう

高潮災害 こんなときは高潮発生の恐れがあります！

- 台風が接近すると気圧の低下に伴い海面が上昇します。気圧が1hPa（ヘクトパスカル）低くなると海面が1cm上昇します。
- 台風が接近すると海水が吹き上げられ、大きな波が発生します。台風の東側では、時に強風となり、高潮が発生しやすくなります。
- 台風の接近と満潮時が重なると危険性が拡大します。海岸部の河口・入り江・V字谷・地盤が低い地域などは危険です。台風の強さ、注意報、警報に注意し、早めの避難を心掛けましょう。



熊本県の大雨警報・注意報の基準値

	1時間雨量	3時間雨量	24時間雨量
大雨警報	60ミリ以上 (ただし、総雨量110ミリ以上)	120ミリ以上	250ミリ以上
大雨注意報	40ミリ以上	60ミリ以上	120ミリ以上

* 1時間・3時間または、24時間雨量のうち、いずれかの雨量が基準値を超えた場合を対象とする。

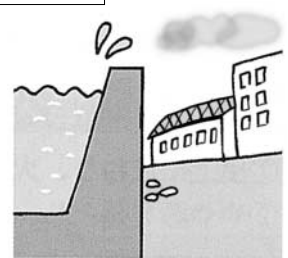
雨の強さと想定される被害

1時間雨量	予報用語	想定される被害
10ミリ～20ミリ未満	やや強い雨	● 地面からの跳ね返りで足元がぬれる ● 長く降り続くときは、注意が必要
20ミリ～30ミリ未満	強い雨	● 傘をさしてもぬれる ● 側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる
30ミリ～50ミリ未満	激しい雨	● 道路が川のように流れる ● 山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要
50ミリ～80ミリ未満	非常に激しい雨	● 水しぶきで視界が悪くなる ● 地下に雨水が流れ込む ● 土石流が起こりやすい
80ミリ～	猛烈な雨	● 大規模な災害が発生する恐れが強い ● 厳重な警戒が必要

こんな土地では、早めの避難態勢を

海岸に近いゼロメートル地帯

満潮時の平均的な海面の高さよりも低い土地は要注意。高潮により浸水、冠水の恐れがあり、堤防が決壊すれば大きな被害を受ける危険性がある。



遠浅海岸や湾奥、河口部の土地

水深が急激に深くなる海岸や湾の奥の土地は、押し寄せた海水が湾の外に出て行きにくいいため高潮のとき水位が上がりやすい。

